

台  
外

高射砲ヲ百六十一連隊 台湾ヲ四五〇部隊略歴  
残務整理者

陸軍中尉 内田 元

陸軍軍曹 石橋達雄

年月日	概
昭一六七	台湾高雄州屏東市台湾ヲ七十二部隊に於て台北要地防空隊編成完結
七	台北進駐
一一、二五	防空ヲ五十一連隊と改称
一三、八	防空下令
一八、四、一	ヲ十方面戦斗序列を命せらるる
六、一	軍令ヲ四十五号に因り高射砲ヲ百六十一連隊と改称 従来終戦迄台湾防衛戦 斗に参加す
	終戦後
	野戦機関砲ニテ中隊転入す 現地入隊者約部隊半数除隊石解す
	残留主力は台中員林郡溪湖、明治製糖会社農園を借用、自活の爲農事に従事す。
	一部は台北州七星郡草山及台北州文山郡浦江に在り 未々自活の爲農耕木材運搬に従事す。尚本部は台北市に残置、兵器奉還の爲手入警戒に任ず。

概

要

(1)

0916

才四五八七部隊高射砲才百六十二聯隊略歴  
 戦務整理者

陸軍中尉 藤川芳雄

陸軍曹長 大隣利則

年月日	概
昭一、九、一	軍令陸甲才七十四号により高雄市に於て防空才五十二聯隊の編成を完結、爾後同地にありて防空に任す
一九、五、二五	軍令陸甲才四十五号により高雄市に編成改正、高射砲才百六十二聯隊と改称、依然同地にありて防空に任す
二〇、三、二五	基隆派遣大隊を編成、基隆市に派遣す
二〇、三、二七	部隊主力は台中市に移駐、該地飛行場防空に任す
七、一五	基隆派遣大隊は嘉義市に移駐、該地飛行場の掩護に任す
八、一四	終戦に伴い部隊は台中州北斗郡漢州に集結、自活の爲め農耕に従事す

概

要

独立混成方四十二師隊略歴

残務整理者

陸軍大尉 柿沼文吉

陸軍曹長 阿佐美茂司

年月日	概	要
昭二、七、五	台湾高雄州鳳山郡烏松庄田草埔に於て編成完結。方十二師団に配属せられ、戦車連隊を主任務として同地附近に位置し、速に作戦準備をなしつつありて終戦に至る。	
九、一	現地入隊者（内台人共）の除隊、召解を行う。	
九、五	将校以下約二百名を台湾憲兵隊に転属す。尔後主力を以て現地自活態勢に移行すると共に一部を以て奉還兵器、軍需品の処理に任ぜり。	
二、二、八	高雄憲兵隊より憲兵将校以下三〇名の配属を受け、軍紀の維持を図り、且軍需品、兵器の奉還後は速に自活業務に邁進しつつありしが、一月下旬内地帰還の為部隊の高雄集結を命ぜられ、二月上旬自活の為の農耕隊派遣の集結を完了す。高雄集結後は主として高雄市復興作業援助に任じつつ待船中。	
二、二一	先發隊八六五名	
二、二四	主力夫々内地帰還の為高雄港出發、先發隊は浦賀に。	

	年 月 日
	<p>昭二、三、三六 三一</p> <p>主力は鹿嶋島に上陸 部隊の復員完結を見たり。</p> <p>概</p> <p>要</p>

(4)

0919

独立工兵第六十四大隊略歴  
 業務整理者

陸軍大尉 稲田武治郎

陸軍曹長 千葉 虎雄

年月日	概	要
昭一九、八一五	編成完結	
九、一六	門司港出發	
九、三九	基隆港に上陸	
二〇、一、二五	門司港出發と同時に台湾軍司令官の隷下に入ると共に、第十師団長の指揮に入り、新竹地区沿岸陣地構築作業並濁水溪大肚溪、大甲溪の浅河設備作業に從事す、 又四十軍司令官の指揮下に入り前記の作業並台南州北港飛行場附近の陣地構築作業に從事す	
五、三〇	方七十一師団長の指揮下に入り主力は独水溪、平林溪、烏溪、大肚溪、大甲溪、 及大安溪の機動渡河準備作業に從事し一部は下淡水溪の機動渡河準備作業に從事し終戦に至る。	
二、二五	内地帰還の為駐屯地彰化市を出發	
二、二八	基隆港を出帆	
三、五	和歌山泉田辺港に上陸す 部隊の復員完結	

(5)

0920

台湾陸軍兵器補給廠 第一二八〇部隊略歴

年月日	概要
昭一九一〇、一〇	廠は兵器行政本部隷下として高雄に駐屯しありしが、第十方面軍野兵器廠として改編を令せられ
二〇	台北に於て編成完結、第十方面軍司令官の隷下に入り
二〇、七、一五	称号を台湾陸軍兵器補給廠と変更せられ台湾軍管区司令官の隷下に入り終始台湾本島部隊に対する兵器材等の補給に在りあり終戦に至る
二一、一、一	復員を令せられ着々復員業務を遂行せしめ
三、三、六	台北出發
三、一、一	基隆港出港
一、一、一六	宇品上陸す

台湾陸軍貨物廠

陸軍主計大佐

佐藤正行

年月日

概

要

昭三六、六

軍令陸甲ヲ三十一号に依リカ十方面軍野戦貨物廠臨時編成並台湾陸軍倉庫閉鎖

下令

編成並閉鎖完結

カ十方面軍の戦斗序列に隷入

軍令陸甲ヲ九十号に依リカ十方面軍野戦貨物廠は台湾陸軍貨物廠と名称改変

戦斗序列を解カ札

復員下令

二一、一

二〇、七、一〇

九、一七

(7)

0922

カ九師団司令部略歴

年月日	概
昭一五、一〇	金沢より満洲牡丹江市に移駐
一六、七	編成、新課、副官、経理、兵醫、軍医獣医部の五部より成る 臨時編成下令に依り更に管理部を加え今日に至る。
昭一五、一六	満洲牡丹江省の警備、カ三軍隷下
一九、七	冲縄島に移駐、首里市に駐屯
昭一九、二七	冲縄島島尻郡の防衛、カ三二軍隷下
二〇、一	台湾に移駐、新竹市に駐屯
昭三〇、九、二	新竹地区の防衛、カ十方面軍隷下 本後終戦に伴う整理業務
二一、一	基隆承船地司令部を兼ね復員輸送業務に従事中（現駐屯地基隆中）以上
二一、一	台湾に於てカ九師団復員下令
一、七	カ一次帰還輸送、基隆港出発、部隊全員の約八割帰還す
三、四	カ二次帰還輸送、基隆港出発、残留の一部約二八名
三、一〇	似の島上陸帰還す
三、一〇	従来の司令部人員にして残留せるものの師団長以下四四名なり、隷下各隊の 残留者似の島上陸を以て復員完結せり 依つて残置せる連隊長及其の他の部隊長に兵若干を当師団司令部に転属す。 目下基隆承船地司令部勤務要員として二月末より続々他兵団残置員へ台湾在駐



二〇、三、二九

部隊)

当司令部に転入しつあり之が人員三〇〇名と推定しあり

右の整理人別冊添附しある残留者留守名録を基礎として加除整理の上基隆業船地司令部任務終了

隷下各部隊在籍の冲繩出身者は帰還の爲一地に集結を命せられ夫々九師団司令部に転属す(九師団司令部賞喜志隊と稱呼す)

目下基隆に集結中なり冲繩向出發は三月中旬の予定なり

留守名録は別冊調製する如く当該部隊に提出方付しありたるも本業務員三月四日基隆港出發時迄に提出しあらざるに依り携行石籠に付最後の当司令部引揚帰還の際携行する予定なるに付新考迄に別冊の「冲繩出身者転属者連名録」添付す。

九師団司令部担任の基隆乗船地司令部の任務終了は基隆地区住民の内地輸送完了の時期迄とし概ね現在の所四月下旬又は五月上旬頃に考司令部は復員帰還するものと豫測しあり。

(9)

0924

歩兵第七連隊 武一五二四部隊略歴

年月日	概要
嘉一九、三、 至二一、三、六	満洲出發時の編成は、連隊本部、一般大隊三、連隊砲一中(四門)、速射砲一中(四門)、通信中隊(有無線各一小)とし、各一般大隊は一般中隊(指揮班及三小)三、機関銃一中(八挺)大隊砲小隊(九七式曲射砲四門)とす。固有のオ三大隊は部隊満洲出来に先立ち南方に転用せられ部隊出發時のオ三大隊はオ四八(一般中隊)中隊を基幹とし他は集放編出せるものなり。オ二大隊(砲一小隊)は、台湾澎湖島要塞司令官の指揮に入り澎湖島の防衛に任ず。
一五、一〇、一 一八	その他指揮隷属系統変化なし 沖繩、台湾駐屯向共連隊砲、速射砲、機関銃大隊砲並に大焰發射器、投擲器の増加配当を受けたる後部隊の改編なし。 満洲移駐の大命を拝し 牡丹江市渡河に到着、爾來同地に在りて練武三才餘東滿重鎮として其の精銳を証はる。
一九、六、二一 七、一一	屯營出發(沖繩湊遣) 新任地沖繩着 同地附近の警備
二〇、一、二四	那霸出發(台湾移駐)

一〇九	基隆上陸
二〇一	同地附近の警備に任ず
三〇一	復員完結
	部隊は左の如く数次に亘り基隆港出帆各々同地港灣上陸の日を以て隊隊へ召集解除す

(11)

0926

第九師団歩兵第九連隊略歴

年月日	概要
昭二五、一〇	以降滿洲國牡丹江省樞校泉駐屯（方三軍方九師団に隸屬）
一九、六	転進下令、豫棧出発（編成一大隊欠）
七	以降冲繩泉葛尻郡駐屯、同地附近の防衛並築城に從事
九	編成改正方三大隊完全編成す（方三十二軍方九師団に隸屬）
一一	転進下令
二〇、八	同月下旬以降台灣新竹州に駐屯、同地の築城並防衛に從事
一一	終戦（方十方面軍方九師団隷屬）
一一、三	以降部隊主力は内地帰還の爲、基隆に集結 残務整理在内地帰還復員完了

カ九師団歩兵才三十五所隊 武才一五三三部隊略歴

年月日	概要
昭一五〇、一五	滿州牡丹江省輝林及寧安、次で危黒山に駐屯
至一九、六、三	冲繩防衛のため危黒山出發
一九、七、一二	冲繩泉那覇港上陸
一、三、二七	冲繩本島南部地区の警備
一、三、二八	台湾転進のため那覇港出發
一、三、三一	台湾基隆港上陸
二〇、三、五	至岡、高雄州鳳山地区の警備
二、六	より新竹州揚梅湖口坑孟山竹北、新埔地区の警備
八、三、一	單旗奉還
二、一、一	復員下令
一、一、二	主力内地に帰還のため基隆港出發
一、一、二	カ一次復員 基隆出發 二、三、六。
一、一、六	浦賀上陸
一、三、〇	カ二次復員 基隆出發 三
一、三、八	カ三次復員 〃 一五
三、四	カ四次復員 〃 一二
三、一〇	似島上陸（復員完結）

(13)

0928

年月日	昭三三三
概	右を以て全員帰還 後買完結 但し基隆に於て逃亡行方不明となりたる三名あり。
要	

(14)

0929

カ一五四六部隊 山砲兵カ九連隊略歴

年月日	概	要
昭二九、六、一五	臨時編成下令	
六、二二	沖繩島激遣の爲牡丹港出發	
七、一	釜山港出發	
七、二	沖繩島那霸港上陸 爾後島尻地区の防衛	
九、二二	軍令陸甲カ一三三号に依り編成改正	
一〇、二七	同編成完結	
一一、二七	台湾激遣の爲那霸港出發	
一一、三〇	基隆港上陸 爾後新竹州の防衛	
昭二〇、八、二〇	野戦重砲兵カ七連隊並に独立野砲兵カ五大隊を指揮す	
一一、一三	カ一次復員(カ二大隊)	
一一、一八	カ二次 (連隊本部)	
一一、二〇	カ三次 (カ三大隊)	
一一、二一	カ四次 (カ一大隊)	
一一、二四	カ五次 (カ四大隊)	
一一、二九	カ六次 (一部追及者)	
三、四	カ七次 (残留員)	

工兵第九聯隊略歴

年月日	概	要
昭和三十九年六月二十	沖縄島派遣のため満洲牡丹江省愛河出發	
七、二	沖縄県那覇港上陸 同日より島尻地区の防衛	
一〇、二七	同日より第一三三軍司令官が九師団長の直轄軍令陸甲第一三三号に依る編成改正完結	
一、二六	引続き同地において防衛に任ず	
一、二六	台湾転進のため那覇港出發	
三、一	基隆港上陸	
三、二	新竹州新竹市到着	
三、二	同日より同地附近の防衛	
三、二四	新竹郡龍潭庄到着 同日より同地附近の防衛	
三、二四	此の向方十方面軍司令官が九師団長、方四十方面軍司令官が九師団長、方十方面軍司令官が九師団長の直轄たり	
八、一四	停戦詔書發布	
九、一七	方十方面軍戦斗序列を解かる	
二、一七	部隊主力鹿見島に於て復員	
三、一	部隊残置者広島に於て復員	
三、一	復員完結 状況左の通り	



二〇、二二、二六 二一、二一、二五 二一、二七	<p>部隊主力は復員のため基隆に集結（待船）</p> <p>同港出發</p> <p>鹿児島上陸</p> <p>同日復員せり</p> <p>残存部隊は新竹州新竹市に在りて残務整理中なりしが整理完了</p> <p>集結のため同市出發</p> <p>同日基隆に集結</p> <p>同港出發</p> <p>鹿児島港上陸</p> <p>復員完結</p> <p>残置部隊なし</p>
-------------------------------	---

(17)

0932

輔重兵方九聯隊略歴

年月日	概要
昭 九 七 一 四	沖繩島派遣のため満洲出發
八 一 〇	沖繩景那覇港上陸 同日より島尻地区の防衛 同日より方三十二軍司令官方九師団長の直轄 軍令陸甲方一三三号に依る編成改正完結
一 〇 三 〇	引続き同地にありて防衛に任ず 台湾報道のため那覇港出發
二 〇 一 二	基隆港上陸 新竹州新竹市到着 同日より同地附近の防衛
二 三 一	移駐のため新竹市出發 新竹郡南面街着 同日より同地附近の防衛
八 一 四	此の間に方面軍司令官方九師団長、方四〇方面軍司令官方九師団長、方十方面軍司令官方九師団長の直轄たり 停戦詔書發布
九 一 七	方十方面軍戦斗序列を解かる
三 一 一	部隊主力鹿見島に於て復員 部隊残置者広島に於て復員

二〇、二三九	復員完結 状況左の通り
二一、二三二	部隊主力は復員のため基隆に集結（待船）
二二、三四	同港出発
二二、三四	鹿児島港上陸 同日復員せり
二二、六	残餘部隊は新竹州新竹市に在りて残廢整理中なりしが整理完了
二二、六	集結のため同市出発
二二、四	同日基隆に集結
二二、四	同港出発
二二、〇	広島港上陸
二二、〇	復員完結
二二、一	残置部隊なし

第九師団ヲ二野戦病院略歴

年月日	概	要
昭一九、六、二二	満洲国牡丹江に於て編成	
二三	牡丹江出發	
七、二	冲繩那覇港に上陸 爾後島尻那原にカ一部を、東原王村にカ二部を開設 患者収養業務に任せり。然るにカ九師団台灣較進に伴い、	
二〇、一、二	那覇港出發	
一九	台灣基隆港に上陸 爾來カ一部を新竹州坪林に、カ二部を湖口に夫々病院を開設 患者収養業務に任せり 傍ら警備に服する内、終戦に至る、	
九、三	復員を下命せしル病院長以下二〇六名台北陸軍病院に転属す、	
一、三、三	病院開設は依然前記場所に於て続行するもカ九師団の内地帰還に伴い 閉鎖す	
二〇、九、三	復員状況左の通り	
復員を下令せらるるや病院長以下二〇六名は台北陸軍病院に転属す 尔後台北	陸軍病院坪林分院として依然在營を続行せり	
然る内、カ九師団復員内地帰還に伴い病院は又内地帰還を命せられ、カ一次は	將校以下百五十四名	
二一、一、七	カ二次は病院長以下二八名	
三、四	夫々基隆港出發内地帰還の途に就き三月十一日を以て全員召集解除を完了せり。	

台  
五外

カ九師団兵器勤務隊略歴

年月日	概 要
昭五、六、三 一〇、三	満洲牡丹江省牡丹江市慶河に在りて警備勤務に従事す カ九師団兵器修理所現編成を以て沖繩島に転進 軍令陸甲才百三十三号により後飯(臨時編成)完結 同日カ九師団兵器勤務隊 編成す
一三、八	台湾に転進新竹州の防衛勤務に任ず 指揮隷屬系統
二一、一、一七 三、一	カ九師団長隷下 カ一次復員 内地帰還 村枝以下八〇名 カ二次 " " 隊長以下 四名 (復員完了)

(2/)

0936

歩兵第四十八聯隊部隊略歴

部隊長 陸軍大佐 田中亮吉

年月日	概	要
明三、三、四	宮中に於て軍旗拝受	
三、二八	久留米歩兵第四十八聯隊に軍旗到着	
三、三〇	日露戦役、旅順攻略戦及奉天沙河会戦に参加	
大、三、三	日独戦争に於て奉天攻略戦参加 (青島と思われ)	
昭七、二	上海争奪に一部参加	
一、四一	満洲派遣のため動員下令	
四一六	博多港出帆満洲牡丹江省寧安駐屯警備	
一、三、末	綏芬河に移駐國境警備	
自一、三、三 至一、九、三三	満洲駐屯	
一、九、三、一〇	軍令陸軍第一五九号下令	
一、三、二〇	編成完結	
一、三、二二	満洲東寧泉城子清出発—旅順—釜山—作戦のため輸送	
二〇、一、二五	釜山港出帆門司に至る	
三一	門司港出帆—黄海—東支那海—基隆	
二、六	基隆上陸	
入	台南市到着、台南地区守備隊となり台南市周辺の防衛並作戦準備	

台南地区守備隊編成 長 坂兵力四八聯隊長 陸軍大佐 田中亮吉

指揮下部隊 歩兵力四八聯隊 野砲兵力三四聯隊力二大隊、独立速射砲力三〇

中隊 特設警備力五〇八大隊、師團特設警備二ヶ大隊、力十二師團力二野戰

病院半部 区処部隊 運移艇地上勤務隊約一ヶ大隊

終戦に伴い台南地守備隊解除

八一四  
八一三〇

軍旗奉還

終戦後一部を以て基隆炭鉱救遺隊（一ヶ中隊）救遺及主力を以て現地自治を實  
施す

力三大隊の一部を本州救遺隊とし岡山郡本州に救遺す

力一大隊は善化 力二大隊は碑子頭附近に於て現地自治

一〇、末

聯隊本部は善化に接駐す

一一、七

本州救遺隊は中国側の指令に基き新化附近に接駐す

一二、天

聯隊本部及力一大隊は中国軍指令に基き新化北區に集結す

至

一一、二  
一一、三  
一一、五

帰国乗船のため高雄市に集結  
以降教次に分れ鹿兒島港上陸 復員

野砲兵才二十四連隊略歴

年月日	概要
昭一、一、二、四	満州出發當時の編成 指揮隷屬系統改編
二〇、一、二	才十二師団長直轄改編をレ
二、二六	駐屯地滿州回牡丹江省東寧縣大城子出發 釜山港出帆
一、二五	基隆港上陸
八、一五	台湾台南州新化郡新化街着、爾後台南、高雄州下に在リテ防衛作戰に従事
八、二五	停戰詔書発布
一〇、一〇	對敵作戰任務解除
二、一、三	現地自活のため台南州新化郡善化街茄拔に集結
二、一六	内地帰還のため高雄市に集結
二、二〇	才一次復員 高雄出帆 旧衛生隊旧病馬廠(四四一名)
二、二四	才二次ッ 才三次ッ 才十二中隊連隊隊列(二六八名)
三、二	大隊本部(八三七名) 以上何れも内地上海港不明 才四次復員 高雄出帆 三月十四日 宇呂上陸



坂兵才三百二聯隊略歴

年月日	概	要
昭二、二、一八	駐屯地台湾高雄州潮州郡坊寮庄出發	
二、一八	高雄市大知國民学校に宿營	
二、二四	乗船のため高雄港岸壁に移駐	
二、二六	乗船人員の都合に依り聯隊長の指揮を離れ陸軍火佐重富知男聯隊本部の一部方	
二、二六	一大隊ヲ二大隊(オハ八中隊ヲ欠)を指揮シ	
二、二六	V〇〇三号に乘船、同時に方百旅団長陸軍火將村田定雄の指揮に入り	
二、二六	高雄港出發	
三、四	大竹港入港 同日上陸	
三、五	復員完結	
三、五	復員状況左の通り	
一、一	復員下令	
一、一	残置部隊 聯隊本部一部ヲ八中隊ヲ二機銃中隊ヲ二大隊砲小隊及ヲ三大隊は	
一、一	高雄岸壁に待期中(二月二十六日)	

(25)

0940

才五十师田步兵才三百三聯隊略歴

年月日	概要
昭五、五、三一	<p>步兵三百三聯隊は步兵才四十七聯隊補充隊を改編し高雄州鳳山屯營に於て編成を完結し才五十师田長の隷下に入る</p>
六、二八	<p>軍旗を揮授す 部隊の編成左の如し 聯隊本部 三ヶ大隊へ一大隊は四ヶ中隊、樹岡銃 中隊一、大隊砲小队一 聯隊砲中隊 速射砲中隊 通信中隊</p>
二、三、一一	<p>尔後才五十师田長の隷下にあり南部台湾の防衛に任じ終戦に至る 復員状況左の通り 聯隊本部才一大隊聯隊砲、速射砲、通信中隊、高雄港出港、大竹港に上陸復員す</p>
三、一五	<p>才二、才三大隊は高雄港出港</p>
三、一一	<p>似の島に上陸復員す</p>

工 兵 方 五 十 連 隊 略 隊

年月日	概	要
昭一九、五、三	軍令座甲方四七号方五十師団工兵方五十連隊編成並方二十五次後帰下令	
五、三一	編成並後帰完結	
七、	駐屯地（高雄州鳳山郡小港左）出發、台北州海山郡板橋街に移駐	
九、	同地出發、高雄州旗山郡旗山街に移駐	
至 一〇、一五	台湾防衛戦斗参加	
一〇、一五	方三中隊、器材小隊充足	
二、	高雄州東港郡萬丹庄に移駐、台湾南部地区陣地構築作業に從事	
二〇、八、一四	停戦詔書発布	
二一、一、一	工兵方五十連隊復員下令	
一、八	軍需品接收完了	
三、二六	駐屯地出發	
三、八	高雄港出帆	
三、一五	大竹港上陸	
	同日復員完結	
	連隊長 宮本火佐	副官 毛利中尉
	右三名居苗民輸送業務要員と三千残苗す	本部付 角曹長

(27)

0942

第六十六師田部隊略歴

司令部調製

年月日	概	要
昭二九七、二	<p>師団は軍令陸軍ヲ八十三号に依り編成下令、旧独立混成ヲ四十六旅団（昭和十九年六月十日編成完結せる歩兵二連隊、迫撃砲隊、工兵隊を基幹とす）を改編し</p>	
七、三一		<p>一三〇〇花蓮港に於て編成完結せり</p>
九、一六	<p>西部軍司令官より次の如く整備人員（既教育）を充足せしめ、到着せり</p> <p>歩兵ヲ三百四連隊 兵一〇九〇名</p> <p>歩兵ヲ三百五連隊 下士官以下 一〇五〇名</p> <p>隷下部隊の隷属離脱一覽表別紙ヲ二の如し</p> <p>指揮下部隊配属、離脱一覽表別紙ヲ三の如し</p>	
一三、二		<p>師団兵器勤務隊、師団衛生隊は内地より台湾への輸送途中潜水艦の攻撃を受け</p> <p>兵器勤務隊の半分及衛生隊の大部約五百余名海没せり</p>
二〇、七、五	<p>師団管理部（持校以下一三六名）新に編成完結し司令部の陣容強化せしむる。</p> <p>師団は急速に内地帰還準備の爲復旧工作及農耕を中止</p> <p>迄に現地出發</p>	
二三、一、三		<p>迄に蘇澳、羅東附近に集結、乗船を待機す</p>
二、中旬	<p>待機間復員業務に従事す</p>	
一、一		<p>復員令下令せられたる部隊次の如し</p>

第六十六師団司令部  
 歩兵方二百四十九連隊  
 歩兵方三百四連隊  
 師団速射砲隊  
 師団迫撃砲隊  
 師団工兵隊  
 師団通信隊  
 師団輜重隊

軍は軍人軍属及其の家族の内、地還送りに引続き居留民の還送にも援助することとなり、次の如く裁留し該業務に携ることとされり。

第六十六師団司令部（連絡支部）師団長以下六十一名、花蓮港支部となり、軍隊区分により新に花蓮港兵事部及同勤務隊（方四二航空地区隊の裁留者）を配属せらる。花蓮港台東方下の居留民還送業務に従事す。

歩	二四九	連隊長	高木大佐	以下	三五〇名
歩	三〇五	松本少佐	以下		二二名
師速	師迫			各	六四名
師工					二五名
師通					五〇名
師輜					一九名



隷下部隊隷属離脱一覧表

部 隊 号	通 林 号	隷 属 年 月 日	離 脱 (復 員 完 結) 年 月 日	摘 要
歩 兵 第 二 四 九 連 隊	政 庁 七 七 六 部 隊	昭 和 元 年 八 月 四 日		
” 三 〇 四 ”	” 一 七 八 六 ”	” 七 月 三 日		
” 三 〇 五 ”	” 一 七 八 七 ”	” 七 月 三 日		
师 团 速 射 砲 隊	” 一 〇 七 〇 ”	” 八 月 四 日		
” 迫 撃 ”	” 一 七 八 八 ”	” 七 月 三 日		
师 团 工 兵 隊	” 一 七 八 九 ”	” 七 月 三 日		
” 通 信 隊	” 一 七 九 二 ”	” 七 月 三 日		
” 輜 重 隊	” 一 七 九 三 ”	” 八 月 一 日		
师 团 兵 器 勤 務 隊	” 一 三 四 六 ”	” 八 月 一 日	昭 和 二 〇 九 年 三 月 三 日 復 員 完 結	解 放 完 結 に 伴 っ て 人 員 は 师 团 司 令 部 に 転 属 す
师 团 衛 生 隊	” 一 〇 七 三 ”	” 一 月 三 〇 日	昭 和 二 〇 九 年 三 月 三 日 復 員 完 結	解 放 完 結 に 伴 っ て 人 員 は 步 兵 第 三 〇 五 連 隊 に 転 属 す
师 团 第 一 野 戰 病 院	” 一 〇 七 四 ”	” 一 月 三 日	昭 和 二 〇 九 年 一 月 三 〇 日 復 員 完 結	解 放 完 結 に 伴 っ て 人 員 は 基 隆 陸 軍 病 院 に 転 属 す
” 第 二 ”	” 一 〇 七 五 ”	” 一 月 三 日	昭 和 二 〇 九 年 一 月 三 〇 日 復 員 完 結	解 放 完 結 に 伴 っ て 人 員 は 基 隆 陸 軍 病 院 に 転 属 す
师 团 病 馬 庫	” 一 〇 七 六 ”	” 一 月 三 日	昭 和 二 〇 九 年 一 月 三 〇 日 復 員 完 結	解 放 完 結 に 伴 っ て 人 員 は 基 隆 陸 軍 病 院 に 転 属 す

指揮下部隊配属離脱状況一覽表

部 隊 号	通 称 号	配属年月日	離脱年月日	摘 要
独立機関銃方三四大隊	台湾方四〇二部隊	昭九、九、七	昭二〇、九、一〇 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方二 四九連隊に配属
独立挺身方一大隊	〃 一三九五	昭二〇、五、二〇	昭二〇、九、一〇 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇五連隊に配属
海上挺身方二一戦隊	〃 五七六八	昭二〇、九、三	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
海上挺身基地方二大隊	〃 一九七六	昭二〇、三月中旬	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
方一野戦築城隊	〃 五七三五	昭二〇、三月下旬	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
独立工兵方四二聯隊	〃 一三八三	昭二〇、四、二〇	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
特設警備方五〇四大隊	〃 一三八六	昭二〇、九、三	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
〃 五〇五	〃 一三八六	昭二〇、九、三	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
台北警備司令部	〃 二八三六	昭二〇、七、五	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
特設警備方五一大隊	〃 四五一一	昭二〇、七、五	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
〃 五一九	〃 四五一一	昭二〇、七、五	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
〃 五二〇	〃 四五一一	昭二〇、七、五	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
〃 五二一	〃 四五一一	昭二〇、七、五	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
〃 五四〇	〃 三三八七	昭二〇、九、三	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属
〃 五二二中队	〃 四五三二	昭二〇、九、三	昭二〇、九、三 復員完結	復員完結に伴ふ人員は、安方三 〇四連隊に配属





第七十一師団司令部略歴

年月日	概要
昭二〇、一、二五	満洲国佳木町出發
二、一	門司港出帆
二、一九	台湾基隆港上陸
二〇	台南州斗六到着
二、一、一	台中州大甲溪以南台南州急水（八帶溪）に亘る地域の防衛の作戦準備
二、一、六	復員下令
三、一	台南州斗六出發
三、一	基隆港出發
三、六	広島県大竹港上陸
三、七	復員完結

歩兵カ八十七聯隊略歴

年月日	
概	<p>満州出兵時の編成</p> <p>聯隊本部</p> <p>聯隊砲中隊</p> <p>速射砲中隊</p> <p>通信中隊</p> <p>カ一大隊</p> <p>カ二大隊</p> <p>カ三大隊</p> <p>隷屬</p> <p>台湾軍司令——カ七十一師団——歩兵カ八十七聯隊</p> <p>後員状況</p> <p>基隆港集結迄及大竹上陸は部隊全員同日なり。船名大久丸</p> <p>本部及直轄中隊カ一、二、三大隊全員無事復員せり</p> <p>残置部隊</p> <p>部隊長</p> <p>中国軍教育教官として將校五名帰還予定</p>
要	

年月日	
<p>概</p> <p>要</p>	<p>昭二〇、一、下旬 三、下旬</p> <p>満洲出發時の編成          聯隊本部 一箇          大隊 四箇          編成人員 二〇一名          隸屬系統          才七十一師団隷下          來遷なし</p> <p>満洲出發          台湾上陸 亦後台中州の防衛に従事し現在に至る          復員          台湾残置者          持 校 三          下士官 三          兵 五          前号の外復員完了す</p>

歩兵才八十八聯隊 才一三三七二部隊略歴

台  
九  
外

歩兵第百四十連隊略歴

年月日	概	要
昭二〇、一、二五 二〇、二、一九 三二	佳木斯出發時の編成 連隊本部	<p>三ヶ大隊（大隊は一戦中隊三ヶ中隊、機関銃中隊一、大隊砲小队一） 連隊砲中隊 速射砲中隊 通信中隊 隷属関係 カ七十一師団→歩兵第百四十連隊 終戦後海上挺進カ二十六隊を隷下に入られ之をカ四大隊に編入す 台湾基隆上陸 嘉義市附近の警備につき終戦後嘉義市附近に於て現地自給をなし現在に至る 復員状況 特記事なし 部隊長陸軍中佐竹中主計 出發直前基隆港に於て抑留せらる</p>

独立歩兵方四百六十七大隊略歴

部隊長 佐久間 政男

年月日	概要
略三〇、二、一五	軍令陸甲方三号に依り独立歩兵方百二大隊臨時編成下令
二二〇	軍令陸甲方二九号に依り独立混成方一〇二旅団臨時編成並隊号変更同日歩兵方四百六十七大隊編成完結
八二四	終戦後部隊は台東に於て自活農園に従事
一三二〇	内地帰還のため台東出發
一三三一	瑞芳に到着後待機中羅東附近の道路補強作業に従事

独立混成方三十二連隊略歴

年月日	概
昭二〇、二、三五	台中に於て編成完結 連隊本部
	方一大隊
	方二大隊
	方三大隊
	歩兵砲中隊
	工兵中隊
三二五	方七十一師団の指揮下に入る
三二七	方六十六師団の指揮下に入る
四二〇	方六十六師団の指揮下をとかれ独立混成方百十二旅団の隷下に入る
三二八	大竹に於て後員完結
	別船により歩兵砲並工兵中隊計二二一名は進々中に内地帰還の善にして上陸地は鹿見島

要